

会 議 錄

会議の名称	平成29年度 新座市子どもの放課後居場所づくり事業運営委員会（第2回）
開催日時	平成29年11月13日（月） 午前10時から午前11時20分まで
開催場所	本庁舎2階 全員協議会室
出席者	金子 廣志 小林 奈々江 高橋 靖子 荒井 マサ子 石原 志穂 岩出 晃 志摩 光信 荒井 規行 中野 仁美 高野 章 設楽 智子 宮川 みさ子 鈴木 義弘 渡辺 哲也 梅田 竜平 榎本 哲典 戸高 正弘 増子 義久 金子 啓一 計19名
事務局職員	教育総務部副部長 今村 哲也 生涯学習スポーツ課 小糸副課長、藤田主任、天倉主事、岡村主事、向山主事補、武嶋
会議内容	1 開会 2 挨拶 3 議事 (1) 子どもの放課後居場所づくり事業運営状況について (2) 子どもの放課後居場所づくり事業アンケート実施及び結果について (3) 新規開設校について (4) その他 4 閉会
会議資料	• 次第資料 • 委員名簿

そ の 他 の 必 要 事 項	特になし
--------------------------------------	------

審 議 の 内 容 (審議経過、結論等)
1 開会 (天倉主事)
2 挨拶 (金子教育長)
3 議事 (運営委員会設置要綱第7条により金子委員長が議事進行)
<p>(1) 子どもの放課後居場所づくり事業運営状況について (説明 : 藤田主任)</p> <p>○学年別登録者数 (資料 P 1 ~ 3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録率は概ね昨年度と同程度で、5割を超えるココフレンドが多くなっている。東野、東北、栗小ココフレンドについては、前年比で5%程度増加している。 途中登録の児童は1学期までは多かったが、夏休み以降落ち着いている。 今年度午後の開室を行った東北ココフレンド、大和田ココフレンドでは、7月に新規登録する児童が多く、夏休み前の駆け込み登録の状況がうかがえる。 低学年の登録者数が多く、特に1、2年生は各校とも7割以上の児童が登録している。 <p>○月別参加人数 (資料 P 4 ~ 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> どのココフレンドでも1学期の参加人数が多く、特に東野・東北・大和田の3校については、100名を超える日が度々あった。保護者会などの学校行事がある日や夏季休業中の参加人数が多く、活動場所を確保することが困難な場合も生じている。 石神ココフレンドは、学校の大規模改修工事が行われたため、夏季休業中のココフレンドを休室とした。 <p>○各ココフレンドの活動状況報告 (石神、新堀、四小、栗小ココフレンドについては、コーディネーターから報告、東野、東北、野寺、新開、大和田ココフレンドについては、事前にいただいた報告を事務局が代読)</p> <p>〈東野ココフレンド〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の参加人数は1,695名、日々の参加人数の平均は73名で、子どもたちは元気に参加していた。 地域の方による紙芝居、立教大学学生によるパフォーマンス、新座警察署のボランティアの方による寸劇等のイベントを行った。 9月に入り、子どもたちの疲れや慣れから、小さなケガや友達同士トラブルになることがある。そのような時は、帰りの会などで友達とのかかわり方や友達の大切さについて話をする。子どもたちは真剣に聞いて

いる。

- ・ 10月30日（木）に十文字学園女子大学の食物栄養学科の学生による食育の勉強会を行った。11月14日（火）にも2回目の食育勉強会を開催する。

〈石神ココフレンド〉

- ・ 今年度は大規模改修工事のため、夏季休業前から校庭が使用できないなどの制約があった。そのため、体育館で遊びたい放課後児童保育室の児童がココフレンドに新規登録するということがあった。また、夏季休業中はココフレンドが休室になったので、ココフレンドの児童が放課後児童保育室に登録するということもあったようだ。
- ・ 10月20日（金）から冬時間になった。平均30名ほどの参加があるが、半分程度がお迎えである。
- ・ 代休日の参加人数は1桁に留まっている。
- ・ 冬休みは、体操教室、クリスマスの工作、オカリナコンサートなどを予定している。

〈東北ココフレンド〉

- ・ 昨年度に引き続き、東北ココフレンドは夏季休業中の1日開室を行った。午後はシルバー人材センターのスタッフが入って盛り上げてくれた。
- ・ 夏季休業中の24日間の平均参加人数は78.5人で、昨年の66人と比べかなり多くなった。そのうち1日参加の平均人数は48.7人で全体の62%である。昨年は40人だったので、夏季休業中にココフレンドで1日過ごした児童は、延べ200人ほど増加したことになる。
- ・ 夏季休業中に参加人数が最も多かったのは7月21日（金）の131名で、最も少なかったのは8月16日（水）の28名だった。
- ・ 7月28日（金）の午前は東北小学校の伊藤友晃先生をお招きして音楽会を行った。その日の午後は放課後児童保育室が企画したパフォーマンスショーに参加し、演奏や大道芸などを楽しんだ。8月4日（金）は初めてジュニアリーダーと一緒にゲーム等で遊んだ。8月18日（金）は紙とセロハンでステンドグラスを作る工作教室を実施した。8月28日（月）には100名ほどの参加者が4組に分かれて、体育館で綱引きとリレー競争の対抗戦を行った。
- ・ 今年度新たに卓球教室を開催し、お話しや紙芝居、ラケットテニス教室も昨年同様に行った。特に卓球は、卓球台を毎日体育館に用意したこともあり上達したようだ。
- ・ 2学期になって学校行事が増え、参加人数は平均30名を超える程度という状況であるが、毎日参加している児童が10名ほどいる。

〈新堀ココフレンド〉

- ・ 昨年度までは高学年の参加もあったが、今年度は低学年が半数以上となっており、低学年を中心とした活動をしている。
- ・ 低学年はココフレンドの生活に慣れてきて、スタッフの声かけがなくとも落ち着いた活動ができるようになった。
- ・ 1年生は宿題が少ないので、学習の時間に算数や国語のプリントを用

意している。筆順などは学校からプリントをいただき、スタッフは確認しながら見守っている。子どもたちも意欲的に取り組んでいる。

- ・ 室内でゲームや工作をして過ごす子どもたちが多い。今年度の特徴である。
- ・ ベテランのスタッフが多く、子どもたちへの理解の幅が広がってきている。子どもたちへの接し方や声かけなど安心して見守りをまかせられる。
- ・ 夏季休業中は地域のシニアの皆さんに御協力頂き、卓球教室を行った。また、今回初めてジュニアリーダーの方々に郷土かるたを教えていただき、大変盛り上がった。

〈四小ココフレンド〉

- ・ 夏季休業中のココフレンドでは、スタッフの協力でたくさんの工作を行い、楽しく過ごした。
- ・ 1年生もココフレンドに慣れてきて、お友達同士のトラブルが起きることがある。
- ・ 昨年度と比べて冬時間になってからのお迎えの児童が多く、午後5時まで在室する児童が10名以上いる。その中でも多少トラブルが起きるようになり、トラブルになる前にスタッフが声掛けをするように気を付けている。
- ・ 10月30日（月）にハロウィンのイベントを行い、50名の参加があった。集合写真を撮って参加児童に配ったところ皆とても喜んだ。12月にもクリスマスのイベントや工作を予定している。
- ・ 毎週月曜日に「ココ寺」という中学年を対象とした学習会がある。とても好評で、3、4年生の登録・参加が増えている。
- ・ 学校の配慮で活動場所を提供していただいているので、大変感謝している。

〈野寺ココフレンド〉

- ・ 2学期に入り来室者が徐々に減りはじめ、冬時間になってからは6時間授業の学年の児童はほとんど来室しなくなった。一人一人とじっくり向き合う事ができる反面、ドッジボールなど大勢での遊びを楽しみにしている子どもたちには少々物足りないようである。
- ・ ハロウィンイベントでは100名を超える参加があり、大変にぎやかな楽しい活動になった。冬時間を利用して様々なクラフト活動を計画していきたい。

〈栗小ココフレンド〉

- ・ 開設3年目になり、現在59%の児童が登録している。
- ・ 冬時間への移行はスムーズで支障なく過ごせている。
- ・ 低学年は宿題がすぐに終わってしまうため、いろいろな工夫をしながら学習の時間を過ごしている。
- ・ 最近ではハロウィンのグッズづくり、鏡を使わない万華鏡づくりを行った。スタッフの特技や趣味、これまでの経験を生かしたスタッフの力に支えられてココフレンドの活動が成り立っている。
- ・ 約半数の家庭がお迎えで、子どもたちの帰り方もスムーズにできてい

る。

- ・ 子どものケガなど緊急時における学校との連携の必要性を感じる。特に学校が休みの時の緊急時の対応については、様々なケースを想定しておかなくてはいけない。
- ・ スタッフとココフレンドの最初と最後に打合せを行っている。集団の見守りではあるが、様々な個性の子どもがいるので、情報交換をしながら対応していきたい。
- ・ 来年度栗原小学校は1学級増になる予定なので、活動場所について心配である。

〈新開ココフレンド〉

- ・ 新開ココフレンドは開室2年目になり、2年生以上はスタッフにも活動にも慣れ、1学年ずつ着実に上級生になっている様子がうかがえる。1年生も明るく元気に登室している。
- ・ 10月30日（月）にココフレハロウィンを行い、仮装や新聞紙でエコバックを制作した。また、電子紙芝居を見たり、ゲームをしたりして楽しい時間を過ごした。
- ・ 12月のクリスマス会ではオカリナ演奏会を予定している。行事を通して異年齢集団としての関わりや成長を見守っていきたい。

〈大和田ココフレンド〉

- ・ 今年度6月に新規開設した。開室当初は毎日100名くらいの参加者があったが、2学期になってからは平均40名弱の参加となっている。冬時間になってからはやや少なくなってきた。
- ・ 子どもたちはココフレンドの生活リズムに慣れてきており、時間に合わせて過ごせている。学習時間は少し騒がしくなることもあるが、よく取り組めている。
- ・ 子どもたちはスタッフを「先生」と呼び、「こんにちは」や「さようなら」などのきちんとした挨拶を心がけている。
- ・ 人数の多いときはトラブルが起きることもあるが、両者の言い分をよく聞き、どうすればよいかを考えさせて解決している。最近はトラブルは減っている。
- ・ スタッフの得意な分野を生かして、時々読み聞かせを行っている。日常的にイベントを行うのは難しいが、冬休みにイベントを予定している。
- ・ 夏季休業中は一日開室を実施した。低・中・高学年に部屋を分け、お弁当を持参しての活動になった。夏休みに入った直後は120名もの児童が参加し、後半は徐々に減ったものの毎日70名前後の児童が参加した。活動時間が長く、持て余してしまう様子も見られた。
- ・ 夏季休業中の午後は、外部委託により学生スタッフが配置された。学生スタッフは子どもたちとの年齢が近く馴染みやすいという良さがある反面、意識の違いから学生自身が慣れるまでに時間を要した。イベントを実施してもらったのはとても助かった。
- ・ 冬季休業中はスタッフだけで一日対応する予定になっている。立教大学学生によるパフォーマンスとバルーン、紙飛行機、プラバンづくりを計画している。

○東北小学校・大和田小学校における夏季休業中の午後の開室（資料P9）

- ・ 大和田放課後児童保育室の夏休み入室者数は前年度と比較して35名減少した。東北放課後児童保育室での入室者数の減少はなかったが、昨年度は16名減少しているため、ココフレンドの午後の開室は、夏季休業中の放課後児童保育室の狭あい化軽減に一定の効果があると考えられる。
- ・ 東北ココフレンドと大和田ココフレンドの合計参加人数はほぼ同数であるが、東北ココフレンドは午前ののみの参加、大和田ココフレンドは終日参加が多いという特徴がある。東北ココフレンドはイベントが午前中に行われていたこと、大和田ココフレンドでは放課後児童保育室の受け皿として活用されたこと、午後にイベントを行ったことが要因として考えられる
- ・ 東北ココフレンドは、昨年同様に午後の活動をシルバー人材センターに委託し、大和田ココフレンドでは、午後の活動を学生をスタッフとして派遣する民間企業に委託した。委託業者による英語、ダンス、ココフレ祭、プログラミング、クリエイティブワークショップなどのイベントを週に1回程度実施し、大変好評だった。

委員長 大規模校のココフレンドでは参加児童が100名を超える日が多くなっており、活動場所の確保が大変だと思う。学校に柔軟に対応していただけるよう校長会等でお願いしたい。

全体的にみると低学年の参加が圧倒的に多い。平成32年度に新しい学習指導要領が改訂され、来年度からその移行期間になる。新座市では授業時数を増やしていく方向で考えており、放課後は高学年はますます参加が難しくなると思う。今後平日だけではなく、夏季休業中の終日の実施のニーズがさらに高くなるだろう。来年度に向けて終日実施のココフレンドを複数校増やしていければよいと思う。

外部の団体と連携して活動を推進しているという報告があった。新座市教育委員会には、ボランティアで来ていただける団体や個人が一覧になった「ボランティアバンク」という冊子がある。ぜひ活用していただき、ネットワークを広げてほしい。また、市内には県立高校が3校、私立高校が2校ある。高校の部活動とも連携がとれるのではないか。情報を収集して、子どもたちの体験的な活動の充実に役立てていただきたい。

(2) 子どもの放課後居場所づくり事業アンケート実施及び結果について

- ・ 昨年実施しなかった東野ココフレンド、四小ココフレンド、栗小ココフレンドの3校、及び今年度新規開設した大和田ココフレンドで実施した。
- ・ 大和田ココフレンドは夏季休業中の午後も開室したので、他の3校とはアンケートの内容が一部異なる。また、初めてココフレンド登録児童を対象としたアンケート調査も実施した。
- ・ 10月6日（月）から11日（金）の期間で実施した。

（資料P10～P27に沿って説明（説明：向山主事補））

委員長 アンケート調査結果から子どもたちが何を望んでいるのか少し見えてきた。

ココフレンドは子どもの空白の時間を埋めていくことを目的にスタートした事業である。空白の時間を教育の時間、社会性を養う時間に変え

ていこうということで進めてきた。そういった目的はある程度達することができたのではないかと思う。

当初、学校とココフレンドがうまく連携を取りながら進めていけるだろうか、ということが懸念事項であった。しかし、学校がハイブリット化してきており、教育課程で授業を進めていくだけでは子どもの発達は完結せず、地域の方などたくさんの方の手助けによって成長していくということの象徴のような事業になってきている。

昨今、子どもの集団遊びが成立しなくなっている。集団遊びの中で培う社会性には計り知れないものがあるのだが、どんどん少なくなっている。ココフレンド事業はそのような子どもたちに救いの手を差しのべているように思われる。

また、この事業が女性の社会進出を促進させていくことになれば、なおよい。ぜひこの事業はなるべく早く早く拡大していかなければよいと思っている。

(3) 新規開設校について（説明：藤田主任）

○新規開設校（資料P28～P29）

平成30年度は第4次基本構想総合振興計画後期基本計画に基づき、実施校の拡大を図るものとして、2校開設することを検討している。

①スタッフルームの確保、②活動場所の確保、③放課後児童保育室が大規模化・狭隘化しているか、という3点から八石小学校、栄小学校の2校を事務局から提案したい。

2校の状況は以下のとおりである。

- ・ 八石小学校、栄小学校共に放課後児童保育室の入室者数は定員を大幅に超えている。入室率は、八石小が140%、栄小が190%。一人当たりの面積は、八石小0.92m²、栄小0.74m²であり、国が掲げる1.65m²以上という目標値を大幅に下回り、狭隘化している。
- ・ 八石小は2階の「生活科室」を、栄小学校は1階の「教材倉庫」をココフレンドスタッフルーム兼活動教室として使用できることを確認しており、各校とも調整が済んでいる。

○市内の設置状況（資料P31）

現在の開設校は、第二中学校区が3校（大和田・東北・東野）、第三中学校区が1校（四小）、第四中学校区が1校（新開）、第五中学校区が2校（野寺・栗原）、第六中学校区が2校（新堀・石神）となっている。

新座中学校区の野火止小学校と陣屋小学校は、児童数の増加により余裕教室がなく、実施が難しい状況である。

○長期休業日の午後の開設（資料P29～P30）

今年度、東北小学校と大和田小学校では、夏休みだけでなく、冬休みや春休みも含めた長期休業日の午後もココフレンドを開設する予定になっている。アンケート調査結果からも長期休業日の午後の開設のニーズが高いことから、平成30年度はこの2校の他に、新規開設候補2校と既存校から2校で、新たに長期休業日の午後も開設する方向で検討している。

午後開設の候補校の一つとして東野小学校を提案させていただきたい。

東野放課後児童保育室は、夏入室児童が全小学校で一番多く、アンケート調査結果でも多くの希望があった。もう一校については、まだ午後の開設がない市内北部の学校で調整しているところである。

委員 長期休業日の午後の開設は大変ありがたい。

委員 予算、人員の確保など厳しいとは思うが、なるべく早く全校に拡大していただきたい。

委員長 余裕教室がない学校もあるが、新しい発想で展開しなくてはいけない。教育委員会内で充分協議をして進めていきたい。

(4) その他 (説明 : 藤田主任 (資料 P 3 2))

- ・ 今後の予定について説明。

委員長 新座市はコミュニティスクール制度を導入している。コミュニティスクールとは、学校の教職員だけでなく地域の方々にも参画していただき、一緒に学校を作っていくという、文部科学省が進めている事業である。来年度は全ての学校で導入する予定である。皆様方にもぜひ御協力をお願いしたい。

ココフレンド事業は全国的にも非常に注目されている事業である。志を高くもって運営していただきたい。

4 閉会 (天倉主事)